

平成20年度 冬山合宿報告書  
～八ヶ岳～



## ～12/27(土)晴れ～

15:20 山麓駅～15:30 山頂駅 15:45

～16:05 縞枯山荘～16:30 大石林道出合

滋賀県での雪による渋滞のため、高速バスが1時間遅れて名古屋駅に到着。電車への乗り換えの間に、駅周辺の市場で食料（筑前煮・五目煮物）を調達する。予定より1本後の電車となったが順調に茅野駅に着き、東京からやってきた玄東燦と会う。バスまでの時間に、すぐに入山できるように各自準備をする。10個のザックをバスに何とか載せロープウェイの山麓駅へ1時間かけて向かう。さらに、山麓駅からロープウェイを使い標高2100mにある山頂駅に到着。風が弱いためかそれほど寒くわない。縞枯山荘へと向かう途中はさくさく雪の上を歩き初日の幕営予定地の縞枯山荘に到着するが、幕営禁止であることを知り計画を変更して雨池峠を下り大石林道にテント張る。

各自下界で買ってきた食糧と差し入れのパンを食べて就寝。（圓井）



## ～28(日)曇りのち晴れ～

4:20 起床 6:40 出発～9:55 麦草峠

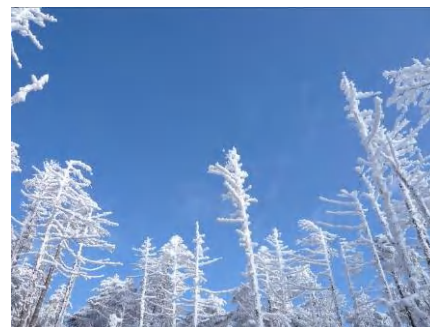
～11:25 丸山～13:15 中山～14:30 黒百合平

始末書を書かせると言った縞枯山荘の人は結局やって来なかった。4:00 過ぎに起床し、朝食“トンゲッティ”を食す。材料：棒ラーメン6食分、雪 適量。

気温 10F° の中、テントを撤収し、6:40 出発。前日はほとんど体力を消費していないため、皆快調に歩みを進める。

最初のピークは縞枯山。山頂は風が強かったため、山頂を少し過ぎたあたりで休憩をとった。気温-16℃。

9:55、登山道に突如現れた国道、ここは縦走路が国道299と交差する麦草峠である。麦草峠を通過し、1回の休憩を挟んで丸山山頂2319mに至る。気温-13℃。ここでは20分の休憩をとった。



樹林帯の中を延びるトレース。ラッセルとは無縁の縦走である。しかしながら、バラクラバの息苦しさのために登りではかなり息があがる。また、腹の調子が思わしくなく、いつもの調子が出ない者もいた。

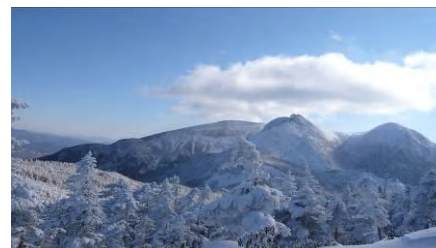
樹林帯を抜け、中山手前の開けたピークに到着したのは13:50。メンバーから微妙に声があがった。遮るものは何もなく、遙か穂高連峰を臨む景色が広がっていた。しばし絶景に目を奪われるものの、風が強く、寒さが半端ではなかったので長居はせずに先に進む。

しばらく進むと、風が無く、見晴らしの良い斜面へ出た。ここでは他の登山客も歩みを止めていた。

程なくして中山に至るが、ピークは樹林帯の中にあり、標識が無ければそれと認識できないようなピークであった。

14:30 黒百合ヒュッテ到着。テントサイトには既に先客がいたので、雪深い場所を整地して利用する必要があった。テントサイト利用料は¥1000/人を支払ったが、後に学生は¥700/人ということが発覚した。

本日の夕食はカレー。名古屋の市場で入手した五目煮物はカレーには甘すぎた。(荒木)



## ～29(月)晴れ～

5:00 起床 6:50 出発～8:20 西天狗岳 8:40～9:30 黒百合平

午前5時、山中としては少し遅めに寢床を出る。臉をこすり、すばやく朝ごはんの準備に取り掛かる。朝食はインスタントの麺（年越しの雰囲気味わうため）。

午前7時、荷物をまとめてテントを出る。アイゼンを装着して、いざ出発。本日はテン場周辺での雪訓（雪上訓練）のため、テントはそのまま放置。

雪訓1はアイゼン歩行、中山峠―東天狗岳の往復。雪に覆われた林を少し上ると正面に、天狗岳山頂からここまで続く尾根が姿を現す。覆っていた木々が薄くなり、辺りは強風が吹きつける（それでも今回は晴天で、“そよ風程度”とみなされるくらいだったらしい）。

尾根かそれより少し右の斜面を歩く。左の斜面には、雪庇と思われる張り出した雪が見える。尾根の傾斜は急で、格好の歩行訓練上である。トレース上の雪はある程度踏み固められてはいるが滑らないように八の字で、あるいは蹴り込みながら進む。岩肌が顔を出しているところも多い。

尾根を登り続け、およそ1時間半で山頂に達した。途中何度かアイゼンの付け直しで時間を浪費したことを考えると、妥当な時間だといえる。山頂には多くのパーティがすでに到着していた。黒百合ヒュッテに泊まり、天狗を目指す人たちも多いのだろう。

少し腰を下ろしてエッセン（行動食）を食し、とんぼ返りで黒百合平に戻る。本日は晴天なり、日差しが強い。テントの周りでしばし休憩。テン場の正面に、斜面がある。全員でスコップ片手に雪を慣らして、滑り台。もといピッケル片手にピッケルストップ。雪がさらさら過ぎてあまりうまくは滑ってくれないが、それでも全員1時間ほどで、形だけでもストップできるようになった。

時計を見ると午後1時。休憩を挟んで埋没訓練とビーコン探索の練習。埋没訓練では1年生全員を一人ずつ雪の中に埋めて、雪崩にあったときの恐怖を体感した。同時に2年生寺



司を下半身だけ埋めて、ゾンデと呼ばれる長い棒で突き、人に当たったときの感触を確かめた。雪崩搜索のときに必要な技術である。

ビーコン探索では、はじめは平面で、慣れてきたら先ほどの斜面で実際のビーコンを用いて搜索した。今回持っていったのは、電波の強弱で探すアナログ式のもの、それと相互換性のある、今回山岳会のほうにお借りした、距離と方向がはっきりわかるデジタル式のものである。全員が、少なくとも一回は自分ひとりの手で探し出すことに成功した。

以上をもってその日の訓練を終わり、テントに戻って夕食（ペミ缶ポトフ）、就寝。次の日に備え、つかの間の休養をとる。（寺司）



## ～30(火)晴れ・風強し～

4:00 起床 6:00 出発～6:55 西天狗岳～8:30 根石山荘

～9:00 夏沢峠 9:30～10:40 硫黄岳～14:00 黒百合平

合宿のメインである硫黄岳アタックの日。起床後すぐに準備をして出発する。昨日アイゼン歩行の練習をしていたため西天狗岳までは順調に進む。西天狗岳からはコンテ。ルートは積雪が少なくトレースもあったので特に問題なく進むと思われた。しかし、進むにつれ風がだんだん強くなり、特にコルではバランスを取るのが困難なほどであったので根石岳山荘にて休憩を取る。強風による凍傷や体力の消耗を心配しこの先進むか考えたが、ひとまず硫黄岳手前の夏沢峠まで向かうことにする。夏沢峠までの樹林帯では風は弱まりすぐに峠に到着。峠からは硫黄岳に登っている人が見え、依然風の心配はあったが登頂を目指す。ここで、甲斐は疲労が激しいため荒木先輩と小屋で待機することにする。

夏沢峠を出発するとすぐに森林限界となり、予想していた通り強風に襲われる。風で雪がほとんど飛ばされている急な登りをジクザクに登っていく。目指す硫黄岳の標高は 2760 m、後方に見える東天狗岳を標高の目印にしながら進む。天



気が良いため山頂付近にあるケルンが良く見える。突発的に吹く強風で左側にある爆裂火口に落ちないように注意しながら、1つずつケルンを通過し山頂が近づく。そしてついに、6個目のケルンがある山頂に到着する。強風により体が冷えるので登頂の喜びを味わいながら、建物の影に身を寄せ合い休憩を取る。山頂からの景色は、赤岳などが見渡せ圧巻である。ただ残念なことに、富士山は赤岳が邪魔をして見えない。



もう少しゆっくり景色を堪能したい所ではあったが、寒さに耐えられず早々に下山を開始する。登りと同様に崖に落ちないように注意し下りていく。夏沢峠で待機していた甲斐と荒木先輩に合流し、休憩の後黒百合ヒュッテを目指し出発する。疲労と登頂した安堵感のためゆっくりとしたペースで進む。途中滋賀から来た登山者との交流もあり、東天狗岳を通過して黒百合ヒュッテに無事到着した。



合宿最後の夕食は筑前煮いりペミカン鍋を食べて就寝。  
(圓井)



## ～31(水)晴れ～

5:00 起床 7:20 出発～8:40 渋の湯

無事下山の朝を迎える。夜の間にも雪が降り 20cmほど積もっている。合宿5日目になってもやはり朝の出発に2時間以上を費やす。渋の湯までの下りは新雪が積もっていて歩きやすいが、新雪の下はアイスバーンになっている。尾根を越えた後は急な下りとなり、積雪量も減ったため大変滑りやすい。アイゼンを履いていた方が無難であったかもしれない。新年を山で迎えるのであろう多くの登山者とすれ違い、小橋を渡って渋の湯温泉へと到着する。(圓井)



## ◇感想&反省◇

### <圓井拓哉>

『まず初めに今回の合宿を行うにあたって、雪崩対策装備を貸して頂いた山岳会の皆様、冬山装備を貸して頂いた先輩方本当にありがとうございました。上記の行動記録にもあるように無事合宿を終え、多くの1年生が冬山を経験することができました。』

冬山合宿のテーマは冬山の生活・雪上技術を身に付けることだった。

生活技術の中でも朝の出発はテントを撤収するしないに関わらず、2時間以上かかってしまった。夏山に比べて装備が多いためであるが、就寝前にどこに何があるのかを確認し起床後にすぐにパッキングをできるようにしなければならない。

雪上訓練は、新雪で雪がしまっていなかったため滑りにくく思うようにはできなかった。しかし夏山合宿では雪訓を行わなかったため、ピッケルストップの形を見せられただけでも良かったと思う。今後、さらに練習を重ねてしっかりと身に付けたい。また、ルート上でラッセルをすることはなかったが、雪を固める際に膝まである新雪の斜面を登り、少しではあるがラッセルの大変さを味わうこともできた。

個人的に反省しなければいけないことも多々あった。作ったペミカンを家の冷蔵庫の中に忘れたこと、縞枯山荘では幕営禁止であったこと、紅茶を用意し忘れたことなどリーダーでありながらパーティに迷惑をかけてしまった。次回の春山合宿では同じ過ちを繰り返さないようにしたい。

いろいろ改善しなければいけない点もあったが、実際に合宿を通して冬山を経験したということが今回大きな成果だと思う。“百聞は一見に如かず” 個々冬山を知り、今後合宿をするにあたって冬山をイメージできるようになったのではないかと思う。この経験をこれからの合宿に生かして欲しい。

### <荒木直人>

合宿の反省を書くたびに毎回のように書いていることがある。

- ①合宿の計画・準備をもっと分担して行うべきだった。
- ② 毎朝の出発準備を手際よく行う必要があった。

4年目にして、今回もまたこの2点を反省点として挙げねばならない。今回は大反省したいと思う。

①について。今回の合宿ではこの点ができていないために様々な問題が顕在化する結果となった。仕事は分担！と言ってきたつもりだったが、これがなかなか難しい。特に今回は厳冬の山に10名で挑むとあってさらに難しかったのかも知れない。とは言うものの、今回の冬合宿を終えた時点で部内の冬山経験者が増えたのも事実であり、今後はより円滑な計画・準備がで

きるのではないかと思う。来年度、現1年生は寺司主将から仕事を奪うくらい積極的に取り組んでほしい。「先輩！俺、赤旗作っておきます！」みたいな。

雪山においてラッセルが無い場合、体力的には楽勝でありたい。それくらい余裕がなければ、ラッセルがある場合あるいは技術が問われる場合に通用しないからである。しかし、残念ながら今回は楽勝ではなく、2006年冬合宿の反省で「雪山では体力はいくらあっても足りそうも無い」と書いたことを思い出した。上級生は未経験者に目を配るために体力的な余裕が必要であり、下級生は技術・経験不足を補うために体力が必要であることをよく認識しておかなければならない。

こう書いていると結局は毎回の反省が活かされていないことが見えてくる。これは果たして自分だけだろうか。答えは否であろう。これは何とかしなくてはならない。

### <寺司周平>

今回の自身の反省点を列挙する。①縦走時にインナーグローブが濡れて、アウターグローブの下で凍り付いてしまった。②輪かんじきとアイゼンの装着に手間取った。③パッキングしすぎて、自分の能力を超える負荷を背負ってしまった④終始、腹の違和感に悩まされた。

①に関しては休憩のときの管理の甘さが原因であると考えられる。エッセン、キジうちのためにアウターグローブを取り外し、雪に触れたインナーグローブが濡れて、アウターの中で再度凍っていた。次回の対策としては、至極アウターをはずさないこと、アウターもなるべく雪に触れさせないことが上げられる。

②に関しては、事前に装着する練習を怠ったことが原因である。これらだけでなく、ヤッケなどの事前確認も大事であると感じた。

③に関しては、日ごろのトレーニングで体力不足を防ぐ、自分の力に見合わないようであれば他の人の力を借りるといったことで対応したい。

④に関しては、山に入る前1週間くらいは体調管理を考え、暴飲暴食を防ぐという基本的なことを守りたい。ただ恥ずべきことではあるが、今回の違和感のおかげで、某漢方胃腸薬の優れた効果を思い知った。次回からの山行のお供に、お勧めします。

反省ばかりでなく、今回の合宿も、大いに山を楽しむことができて素晴らしかったと思う。ただひとつ心残りなのは、今回の合宿は‘サニー’のおかげで好天に恵まれて快適であったが、逆にそのおかげで冬山の厳しさを存分には味わえなかったことが残念で、しかしそう思うのも、下山後1週間が過ぎた今だからであろう。



## <甲斐誠二>

人生は初の冬山登山であった。さまざまな理由があり、高校の時は3シーズンのみの登山しかやってこなかった。よくニュースでは冬山で遭難してしまうといった事故が取り上げられるので多少の不安もあったが、先輩方はしっかりしているし、佐藤先輩も参加されるということで、不安よりも期待いっぱい的心境で冬合宿をむかえることができた。

ふもとに着くと、今まで見たこともないような冬景色にびっくりした。一面が白銀の世界だった。そして、予想以上の寒さに驚いた。マイナス十数度。幕営するも、テントの中でさえ水分は凍ってしまう。また、雪を溶かして水を作ったり、靴を凍りつかせないようにしたりと、いろいろなことを学んだ。

逆に、歩き出してしまえば足先まで非常に暑い。それに、ほかのシーズンより歩くのが大変だ。いつもより重い装備と歩きにくい雪の上。特に傾斜があるところではすごく力を使ってしまっていた。また、アタックの日には風が強く、何度も体を持っていかれそうになり、ものすごくスタミナを消耗してしまった。体力的に厳しかったので、硫黄には登らず、夏沢ヒュッテでほかのメンバーの帰りを待つことになってしまった。非常にふがいなく思う。

初めての冬山は自分が思っていた以上に厳しいものだった。しかし、工夫次第で結構快適に過ごせるのだと感じた。これからいろんな経験を積んで、安全に登山を終えることができるようさまざまなことを学びとり、楽しい登山ができるようにしていきたい。最後に、OBの方々大変ありがとうございました。この合宿を行うことができたのもありがたい支援のおかげだと思います。また、一緒に、夏沢ヒュッテに残っていただいた荒木先輩ありがとうございました。

## <小須田勝利>

まず、部内でも特に金が無かった自分が、先輩方が装備類を貸して下さったおかげで合宿に参加できたことに感謝したいと思います。ありがとうございました。今回、生まれて初めて雪山に登りましたが、自分にとっては非常に貴重な経験だったように思います。まずパッキングが完了した時点でその体積に驚かされたザックを背負い、赤旗を手に道行く人々の視線を気にしながらバスセンターへ向かうところからがすでに戸惑いでした。無事にバスに乗り込んで一息つきつつも、先行きに不安を感じながら出発しました。

次々と乗り継いでロープウェイ乗り場に到着。話に聞く皫枯現象が雪のためわかりにくかったのが残念。ロープウェイを降りたところで装備を整えますが、何を付けるべきかは分かっているも装着の順番が分からず、結局3回ほどやり直して完了しました。雪上を歩き始めてからも、土や岩とは勝手が違いすぎ、樹林帯の中の幕営地点までたどり着く頃には息を切らしていました。さらにここから、整地、凍りついた装備品、雪落とし、水作りと、夏山とはまったく違う体験に混乱しつつ、山靴を枕にして初日を終わりました。

2日目、テントからザックを引きはがして荷物を詰め込み、テントを畳んで出発。初日に比べれば歩行にも慣れましたが、ピッケルは滑る、ゴーグルは凍るで苦労させられました。天候に恵まれ途中特に問題も無く、中山からの眺めや樹氷を楽しみつつ、黒百合ヒュッテに到着しました。

3日目には東天狗までを往復した後に、滑落停止やビーコンによる搜索の訓練を行いました。新雪だったために滑りづらく、滑落訓練自体はちょっとイメージがつかみにくくなりましたが、トレースではない柔らかいままの雪の上を移動する難しさについてはかなり思い知らされました。

4日目に体験した風は、今回の合宿の中でも特に印象的でした。硫黄岳までの道程では、固定が甘かった装備が外れたり、突風になぎ倒されたりといった危険を感じることもあり、全身がそのまま持っていかれるような感覚は今でもはっきりと覚えています。

今回の合宿では戸惑うことや苦労することも多かったですが、得るものも大きかったと思います。また大きな怪我人も出ず天候にも恵まれ、純粋に楽しむことができて良かったとも思っています。来年は後輩を連れて歩くかもしれない山々の記憶を留めつつ、次の合宿に向けて気持ちを新たにしている今日この頃です。

#### <澤 真史>

今回の合宿で、初めて冬山を体験しました。寒かったり荷物が重かったりでいろいろ大変ではありましたが、雪をかぶった山々はとてもきれいでしたし、雪の上を歩く感覚は新鮮でした。岩場歩きときはあれほど邪魔だったアイゼンが、雪の上では快適ツールに変わったときには感動を覚えました。そんなこんなで、充実した合宿になったと思います。

反省点としては、やはり体力のことがあります。重い荷物を背負ってもしっかりと歩ける体力が欲しいなあと思いました。また、テントの中では自分の不注意で水を何度もこぼしてしまい同じテントの人には迷惑をかけました。同じテントだった人、ごめんなさい。

次はもっと余裕を持って歩けるように、日頃から少しずつでもトレーニングを積んでいきたいと思います。

#### <立川雄大>

今回の冬山合宿、いいところ、悪いところがそれぞれあり、悪いところとしては、北アルプスの時ほど準備不足ではなかったのですが、寒さ対策として、自分で、自分に必要なものをもっと考えて持っていけばよかったのではないかと思います。

具体的には手の先とか、足の先とか冷えやすいところはもうちょっと厚めのものを着けていけば良かったと思いました。冬山の夜はとても冷えるので、その間に手や足がとても冷えて、山を下りたときには少し麻痺みたいなかたちで残ってしまいました。

次は体力不足が自分のなかでは大きな反省点だと思います。前の北アルプスみたいに夏休みという長い休みがなかったというのがありますが、それでも時間の合間、授業の空いた時間とかに

でも、走ったりとかして体力はつけておくべきでした。

そして今回の八ヶ岳のいいところは今まで自分が行った合宿と違い、ずっと快晴のいい天気で濡れて嫌な思いをすることはほとんどありませんでした。そして景色も綺麗で冬の山だけしかない一面銀世界というのも見られました。富士山がみえるかもしれなかったのですが、今回は遠くのほうは雲があり見えなかったのは残念でした。それでも北アルプスや浅間山の景色は絶景でした。

### <田中宏典>

26~27日 高速バスで名古屋まで、その後電車を乗り継いで茅野まで、続いてバスで蓼科ロープウェイ山麓駅に到着。今だから言えるのだが、実は高速バスの中でうっかり携帯とサヨナラして来た田中であつた。(下山後無事発見)ロープウェイを降りると雪国だった。誤って足を踏み外すと腰まで嵌ってしまうほどの深雪の中縞枯山荘を目指す。歩き始めて10分ほどで到着、がここで重大ミス発見。縞枯山荘ではテント泊禁止であつた。我々は仕方なく本日のテント場

を探して斜面を下って行った。しばらく下りた林道の開けた場所を整地して、テントを張り一泊。

28日 本日は雪上訓練の予定だったが29日の予定に変更。黒百合ヒュッテを目指す。4:30起床。朝食は棒ラーメン。喰うのが遅い田中にとっては毎合宿ごとに朝は鬼門。ピッケルを手に6:30出発。まずは昨日下った道を登らなければならない。こんな道は予定になかったのだが……。冬山の神を憎みつつ、縞枯山をスルーし茶臼岳へ。アイゼン未装着状態で登る雪の斜面は滑りじわじわと体力を奪う。その上ザックも肩に重くのしかかる。北アルプス下山後のように、一週間ほど肩が上がらなくなって背中が洗えなくなったりしなければいいが……。下りは皆スキーのように流麗に滑る一方で、田中は取り残されそうになりながらも必死に前に喰らいついていく。表草峠で車道と遭遇。成程、圓井部長が帰りたくなると言っていた理由が今わかった。諦めてここからは丸山までの登り。続いて高見石小屋までの下り。そして最後の登りとなる中山。ヘトヘトになりながらも何とか登頂。北アルプスから少しは体力がついたようだ。休憩を挟み少し進むと開けた場所に出た。そこには北アルプスまで見渡せる絶景が広がっていた。しかし寒さと冷え症でそんなもの楽しむどころではない田中であつた。しばらく下りると無事黒百合ヒュッテ到着。整地してテントを張る。到着して安心し腰の力が抜け、日も傾き始め一入に寒くなったせい、作業の途中で田中の動きが止まる。テントの中でも、調理中だろうが圓井部長が明日の予定の話をしていよいよ爆睡する田中であつた。

29日 本日は雪上訓練が主。4:30起床。寒くて毎朝起きるのが辛い……。午前中はアイゼンを装着し東天狗岳までの往復。6:30発。急斜面もアイゼンだと登りやすい。東天狗岳山頂にも北アルプスと南アルプスを見渡せる絶景が広がる。しかしやはり寒さでそれどころではない田中。早く下りたい……。浅間山がどうしたと言うんだw帰ったらクイズ?シラネ。正午前に黒百合ヒ

ユッテ無事帰還。暫し休憩後、背後の斜面を整地しピッケルストップ訓練。雪が服の中に入り冷たいが意外と楽しい。続いて1年生が雪に埋められる。雪の密閉空間に快感を感じる。ゾンテ訓練の後、ビーコン捜索。何とか見つかって安心……。これらは冬山においてのみ可能な訓練であることを考えると、改めて貴重な経験だったと思う。その日の夜、思いがけぬ報告。大晦日から元旦にかけて天気が荒れるとのこと。最悪丸一日テント内で過ごす可能性も無きにしも非ず、田中は単独での下山を企て始めた。

30日 本日は今合宿のメインイベント。いつもより早い4:00起床で、硫黄岳登頂を目指す。東天狗からコンテ。未だ結び方覚えてない……。東天狗から根石岳までは横風が強いうえ風下側が切れており、飛ばされようものなら命の保証はない。根石山荘で休憩後夏沢峠へ。またも風が谷間から強く吹きつける。下りでここまで疲れたのは初めてかも知れない。コンテを組んだのも失策だったか、夏沢ヒュッテにて解除し、いよいよ硫黄岳へ。風もなく、起伏も少ない林道が続き油断していると、抜けるや否や風の吹きつける登りが始まった。風下側は当然の如く切り立っているうえ雪庇も発達。踏み間違えようものなら……。と思うと怖ろしいので考えない方がいい。軽荷で体力の消耗が少なかったのはいいのだが、風に流されやすくもあるわけで……。飛ばされそうになりながらも、「憎まれっ子世にはばかんだよ、こんなところで死ぬわけにやいかねえんだよ」とか「富士山を見るまで帰れるかよ」とか唸りながら辛うじて登頂。しかし富士山は見えぬ。軽く shock。それでも北アルプス、南アルプスが見渡せる絶景であることには変わらない。今年最後の大事な仕事に感慨を覚えぬこともなかった。気が抜けたのか、帰りの夏沢峠辺りから突然疲れが襲った。夕食は筑前煮風ポトフという、明らかに不釣り合いなコラボが実現。早く下りたい……。その日の夜はUNOで盛り上がるも連敗が続く。結局後日下山することとなり、脱走は未遂に終わった。

31日 起きるのマジでキツイ……。前日で力尽きたのか、この日の田中は一際鈍い。靴紐の長さが左右で合わず結べない。出発が遅れたのも田中のせい。それでも渋の湯に浸かった後は順調に名古屋まで到着。茅野にて、賢いコインロッカーに預けたせいか、立川殿の荷物に悲劇が。田中は一足先に先輩達と新幹線で博多へ。午後10:00頃到着。今年最後の大事な仕事が終了。